

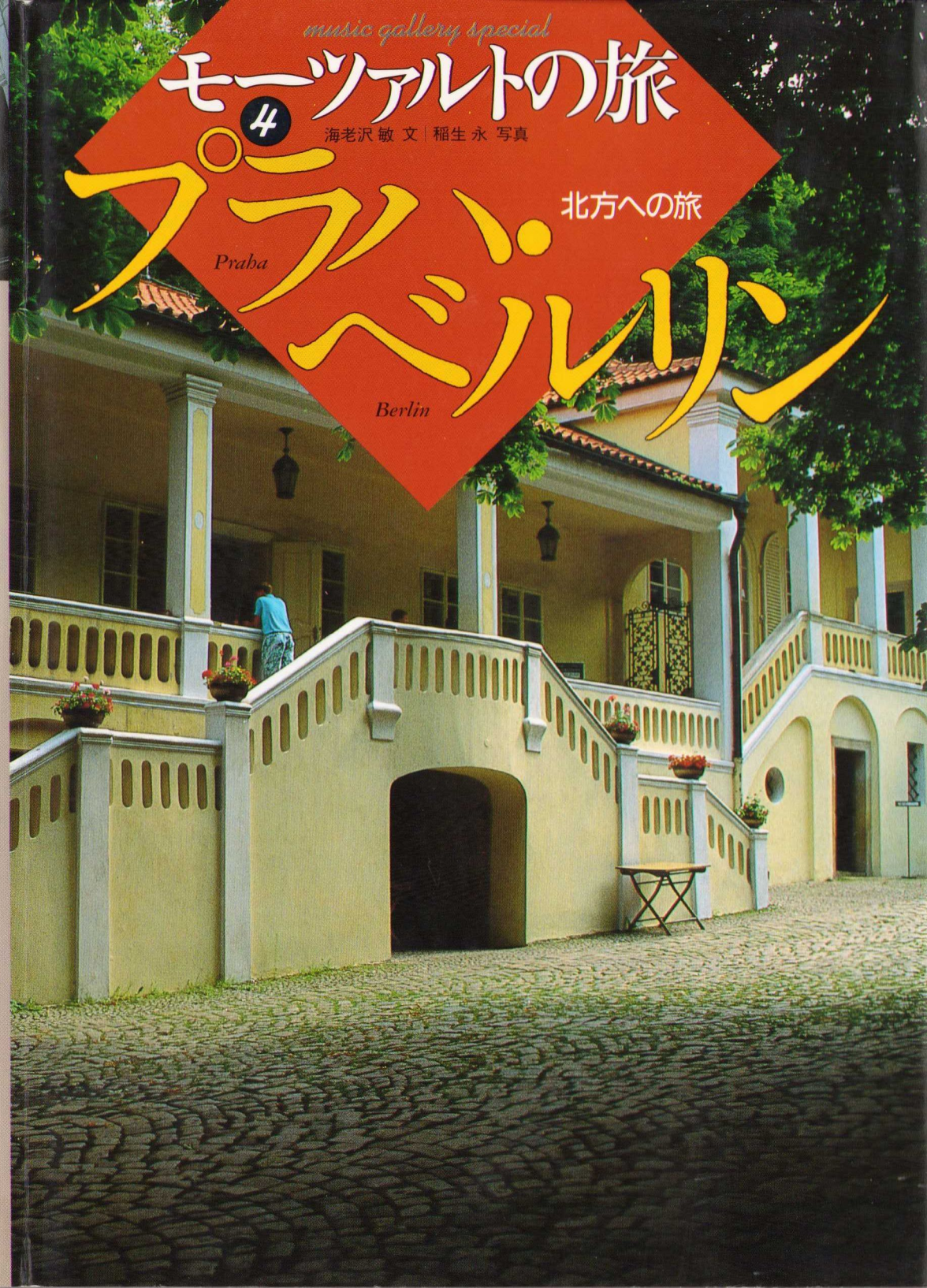


カバーの表▶プラハのペルトラムカ荘

カバーの裏▶ポツダムサン＝スーシ宮の庭園の鉄格子の亭と棚

カバーの折返し▶ドレスデンの王宮付属カトリック教会の内陣にあるジルバーマンオルガン

扉▶W.A.モーツァルト(柘植製レリーフ、L.ボッシュ作、ウィーン、1789年5月)



music gallery special

モーツァルトの旅

4

海老沢 敏 文 | 稲生 永 写真

プラハ・ベルリン

Praha

Berlin

北方への旅

モーツァルトの旅 4

プラハ・ベルリン

Mozart

北方への旅

稲生 永 ◆ 写真
海老沢 敏 ◆ 文

音楽之友社



ISBN4-276-38404-4 C0073 P2200E 定価2200円(本体2136円)

music gallery special

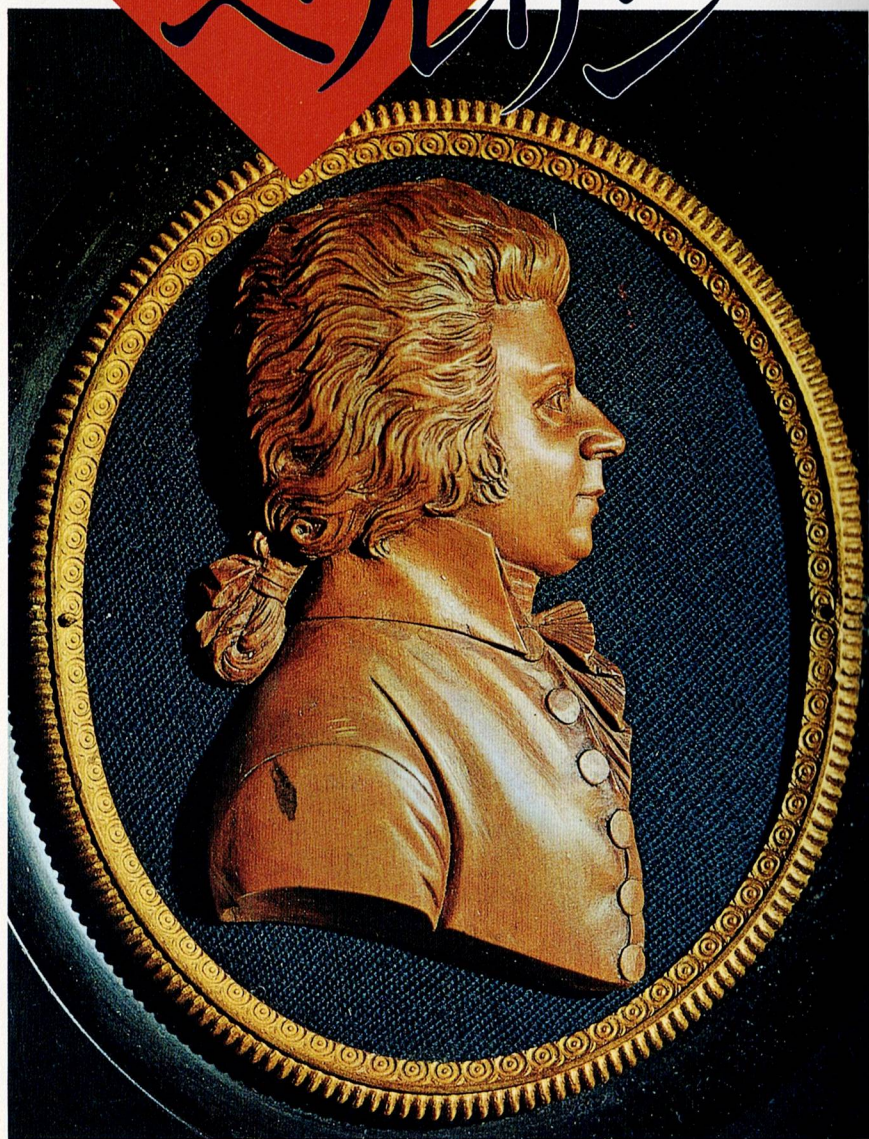
モーツァルトの旅

4

海老沢敏 文 稲生永 写真

北方への旅

プラハ・ベリン



音楽之友社

モーツァルトの旅

私は最初の巻で、モーツァルトの旅は、まこと多様多彩であり、まこと遙かであったと語った。そして最後の巻でもまたそう語ることだろう。そのモーツァルトの旅の原点には故郷の町ザルツブルクがあり、また最後の旅の目的地は、ウィーンであるとも語っている。そのウィーンは、モーツァルトの最後の活動の場でもあったことは疑うべくもない。

だが、そのウィーンでの生活と活動の中にも、いくつかの旅がちりばめられている。ザルツブルクへの里帰りの旅もあれば、新皇帝レーオポルト二世の戴冠式を祝うべきフランクフルト・アム・マインへの満たされぬ願望の旅もある。

しかし、この私には、ウィーン時代の彼が企てた三たび、否、四度のプラハ旅行と、そして、そのプラハを経由しての、さらに北方に位置するドレスデンやライプツィヒ、そしてベルリンおよびポツダムへの旅がまことに重要なものに思われるのだ。三度のプラハへの旅は、オペラの旅であったし、そして北ドイツへの旅は、過去の音楽、バッハやその残党の死に絶えなかに思われていた伝統を、現在に、否、未来に生かすべき、バロック体験の、音楽史的体験の旅であった。これらの旅なしに、モーツァルトの十全な存在感が果してありえたであろうか。これらの旅なしに現在私たちの知る古典派音楽史も、また、果して書かれえたものであろうか。



ポツダム：サン＝スーン（無憂）宮の正面の泉水と階段状テラスと階段

目次

ボヘミアと北ドイツの都—— 3

第一章

プラハへの旅路のモーツァルト—— 6

第二章

傑作オペラの森—— 33

第三章

ドレスデン、そしてライプツィヒ—— 73

第四章

ポツダム宮にて—— 97

第五章

バロックの残像—— 113

モーツァルト年譜—— 125

海老沢 敏 (えびさわ びん)

1931年生れ。東大文学部卒。現在国立音楽大学学術部長。ザルツブルク国際モーツァルテウム財団中央モーツァルト研究所員。モーツァルト、ルソーの研究で知られる。主な著書に『モーツァルトの生涯』、『モーツァルトを聴く』、『モーツァルト像の軌跡』、『モーツァルトは宇宙』、『ルソーと音楽』他多数。

稲生 永 (いのう ひさし)

1932年生れ。東大仏文卒。現在立教大学教授。19・20世紀フランス文学専攻。主な著書に『魔法の地理学——フランス文学紀行』、『写真集・フランスの歴史と文学』、共編著に『事典・現代のフランス』、共編訳書に『ネルヴァル全集』、『ランボー全集』。

地図製作：稲生 永

写真資料協力：福井鉄也 (p. 73, 76上)

music gallery special

モーツァルトの旅 ④

プラハ・ベルリン——北方への旅

一九九二年六月十五日 第一刷発行 ㊞

●著者——海老沢 敏

●写真——稲生 永

●発行者——浅香 淳

●発行所——株式会社 音楽之友社

〒162 東京都新宿区神楽坂六―三〇

電話 (三三五) 二二一一 (代)

受注専用 (三三〇) 四二九一

振替 東京七―一九六二五〇

●写植——木倉舎

●印刷・製本——共同印刷

●装幀——菊地信義

●レイアウト——押山マサル

ISBN 4 - 276 - 38404 - 4 C 0073

この著作物の全部または一部を権利者に無断で複製 (コピー) することは、著作権の侵害にあたり、著作権法により罰せられます。

Printed in Japan